

森のニュース 1

平成20年度 治山林道の予算等について



生分解性植生シート施工

神奈川県治山林道協会会員の皆様には、日ごろから神奈川県の森林行政の推進に多大なるご支援、ご協力を賜り、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

さて、豊かな水を育む森と清らかな水源の保全・再生のために特別に策定された「かながわ水源環境保全・再生実行5か年計画」も2年目を迎え、その個々の対策の実行を支える治山・林道事業の着実な推進の重要性が増しています。

また、平成20年度は、京都議定書第一約束期間のスタートの年にあたり、本県でも「神奈川から脱温暖化社会の実現」に向けた取り組みを広く呼びかける「クールネッサンス宣言」に掲げたリーディング・プロジェクトとして、県有施設への太陽光発電設備の率先導入や電気自動車の普及推進等に取り組んでいるところですが、森林分野においても、CO₂の森林吸収源対策として、造林や間伐などの森林整備の実施が急務とされ、森林へのアクセスを担う林道整備、森林を保全する治山対策がますます重要性を増しております。

その中で、平成20年度の治山林道事業予算は、総額で対前年比（6月補正後）98%、28億9千万円が確保されたところです。

内訳は、治山費（保安林管理事業費を含む）は19億1千万円、林道費が9億8千万円で、それぞれ前年（6月補正後）との対比108.6%、82.4%となります。

治山費においては、国からの補助金を得て実施する治山事業費（公共事業）等が16億3千万円、本県の独自予算で実施する治山事業費（単独事業）等が2億6千万円で、平成14年・17年に箱根駒ヶ岳の斜面が崩壊・土石流化した箱根町元箱根（蛇骨川上流）の復旧治山、山北町中川の酒匂川水系三保ダム上流（箒沢）および南足柄市荏野の狩川水系箱根外輪山（唐沢川）における保安林機能維持向上を目的とした水源流域広域保全事業に予算を集中的に配分し、早期の完成を目指しております。



中尾沢2工事

林道費については、国からの補助金や交付金を得て実施する林道開設費（公共事業）等が4億7千万円、本県の独自予算で実施する林道改良事業費（単独事業）等

が5億1千万円で、県営林道八丁神縄線（山北町皆瀬川）ほか2路線4工区で実施する林道開設工事の早期完成、県営林道玄倉線（山北町玄倉）2号隧道老朽化対策、台風等により被災した林道の通行機能を早期に回復させる林道交通安全対策、および市町村等が事業主体となって林道の改良等を実施する団体営林道整備3路線等に重点的に予算を配分しております。



八丁神縄林道（八丁工区）

治山・林道工事の実施にあたっては、工事自体のコスト縮減はもちろんのこと、県産間伐材の利用、巨石や丸太等の現地素材の利用、生分解性資材の利用、建設機械の排出ガス対策型の使用など、環境負荷軽減や地球温暖化防止に配慮した工事現場でのCO₂排出削減のきめこまかな取組みを事業者と工夫しあいながら行ってまいりたいと考えております。

今後とも県では、森林資源の有効活用など適切な森林管理に供する林道整備と保安林機能の維持向上を図る治山対策を実施してまいります。

会員の皆様には、治山・林道事業の着実な推進にご支援賜りますようお願い申し上げます。

（環境農政部森林課 森林整備班
技幹 内山 豊）